【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

学校の概要(平成15年4月現在)

学 校	名	兵庫県小野市立小野中学校					
学	年	1 年	2 年	3 年	障害児学級	計	教員数
学 級	数	6	5	6	1	1 8	3 2
生徒	数	2 0 3	183	2 1 8	3	607	

研究の概要

1.研究主題

基礎・基本の定着を図り、仲間と共に自ら学ぼうとする力を育てる。

2.研究内容と方法

- (1) 実施学年・教科
- ・2年生・数学

生徒の理解度等に差が出やすい学年であるため。

教科の特性上、成果の出やすい教科であるため。

・1年生・英語

入学し、初めて学ぶ教科であるため。

(2) 年次ごとの評価

1

平 テーマ 少人数を生かし、学習習慣・学習規律の定着。

成研究の見通し

個々に応じたきめ細やかな指導で、学習習慣・学習規律を身につけさ

4 せるとともに、基礎・基本の定着を図り個人だけでなく仲間との関わり

年 の中での学ぶ楽しさを味わわせる。

度 研究の内容・方法

・通常の授業時間 + 総合学習の時間を利用し、新学習における指導を 数学と国語で行った。

・数学・国語科の担当教師による授業展開、進度について報告、確認。

テーマ 少人数を生かした、きめ細やかな指導

平 研究の見通し

成

生徒の学習状況や定着度を踏まえ個々のつまずきに速やかに対応し、

1 生徒の多様な考え方に応じた適切な支援を行い、学ぶ喜びや成就感を体

5 │ 得させる。また、各学級をハーフサイズにして指導することにより、基礎・

年 基本の徹底を図り、仲間と共に自ら学ぼうとする力を育てていく。

度 研究の内容・方法

- ・各授業での基礎学力小テストの結果分析
- ・自己評価表の活用

平 テーマ 少人数指導における教材開発

成 研究の見通し

1 少人数指導におけるより効果的な可能性を探りながら、各教科の特性

6 に応じた授業・教材を工夫する。

年 研究の内容・方法

度・各教科部会で検討

・先進校への視察

(3) 研究推進体制

小野中学校教育改革推進委員会

(校長、教頭、新学習システム推進教員2名、四指導部長(教科指導部長、

特別活動指導部長、道徳指導部長、総合学習部長)、各学年代表3名、生徒指導担当教員、不登校担当教員で構成)

- ・新学習システムの企画及び推進状況の把握、評価等による課題整理と検討を行う。
 - · 毎週月曜日放課後実施。

新学習システム担当者教科部会

(新学習システム担当学年数学・英語科教員で構成)

- ・授業展開、進度について報告、確認。
- ・次週の打ち合わせ
- · 每週火曜日放課後実施。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1.研究の成果

個別に関わりやすく、生徒指導面でも問題があった生徒が集中して取り組むよう になった。発表や質問の機会が増え、授業への取り組みが活発になった。

2.今後の課題

少人数を生かした指導方法の工夫

小集団の編成方法への学習面で特別な支援を要する生徒を重点とした小集団編成 方法

個に応じた指導のための教材開発

学力把握のための学校としての取組

授業中の小テスト

10月・2月・7月に実施した基礎学力テストの結果を比較分析

中間・期末・確認テストなどの定期テスト

自己評価表の利用

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

校区の小学校の教師を招いた少人数授業の研究会を実施。

市内四中学校の数学部会・英語部会による少人数授業の研究会を計画。

年間の研究まとめの冊子を市内中学校に配布。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4~6学級

7~9学級 10~12学級

13~15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導

その他

【研究教材】 国語 社会 数学 理科

外国語 音楽 美術 技術・家庭

保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無